

優れた、より良い福祉コミュニティーをめざして

まほろばふれあいネットワーク 社協広報

【特集】ふれあい児童館事業等の新たな展開

第9号



レインボークラブ活動等いっせいにスタート!

わんぱく探検隊・遊ゆう工房・リトルサウンドと、レインボークラブ/サークルが相次いで結成され、また、親子グルメ・ちびっこ星座の各種児童館教室も開催されることとなった。

写真/「遊ゆう工房」の活動風景から

特集 ふれあい児童館事業等の新たな展開

○社協受託事業として再スタート

本年7月1日より、ふれあい児童館事業・放課後児童対策事業・ふれあいの館管理運営業務について、村から社会福祉協議会が事業受託し、新たに事業運営をすることとなった。

ふれあい児童館事業等は、平成6年6月より、村の事業として開始され、その基盤整備とともに諸事業が施行実施されてきたが、本年4月、「山形村ふれあい児童館事業運営要綱」並びに「山形村放課後児童対策事業運営要綱」が制定されるに至って、ふれあいの館の管理運営業務と併せて、村より社会福祉協議会が事業受託する運びとなったものである。

○児童館の運営方針等

社会福祉協議会では、村の事業運営要綱に基づき、次の運営方針を掲げ、本年7月より具体的な諸活動を開始している。

①児童に健全な遊びを与え、集団的、個別的に指導して児童の健康を増進し、情操を豊かにする。②母親クラブ、子ども会等の地域組織活動の育成助長を図り、その指導者の養成につとめる。③異年齢児がふれあえる機会などを提供し、親子で参加できるイベント・体験活動等を実施する。④児童に老人へのいたわり、思いやりの心を芽生えさせ、その情操を高めるため、



▲カレーライスで昼食会（平成6年度事業から）

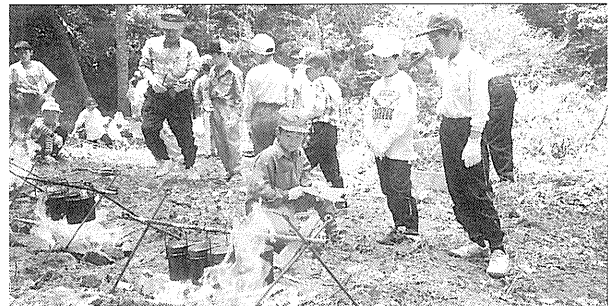
子どもと老人のふれあい事業を実施する。⑤放課後児童対策事業を併設実施し、昼間保護者のいない家庭の小学校低学年児童等を対象に、育成・指導を行う。⑥その他、地域の児童の健全育成に必要な活動及び事業を実施する。

○多様な体験活動の場

具体的な活動としては、先づ、ふれあいの館を拠点に、日常、児童が遊びを通して生き生き

とした活動ができるよう、村内の児童を対象に、毎週月曜日から土曜日まで、午前9時30分から午後5時までの間開館し、多様な体験活動の場の提供等を行うこととしている。

○子どもクラブの育成



▲横吹沢で飯合すいさん／わんぱく探検隊

次に、ふれあい児童館子ども会／レインボークラブを設置し、仲間づくりと自主活動ができるよう、クラブ活動の育成につとめることとなった。

本年結成されたクラブ内サークルには、この地域に生息する動物（野鳥・昆虫など）・植物の観察他、自然と親しむ体験活動をする『わんぱく探検隊』、○物語・人形作り、劇の練習・発表と、人形劇による創作活動に親しむ『遊ゆう



▲ロボット人形等も教材にして／遊ゆう工房

工房』、○いろいろな音楽・楽器に親しみ、音楽鑑賞、演奏の楽しみを再発見する『リトルサウンド



▲先づは楽器に触れてみて／リトルサウンド

ド』の3つがあり、多くの小学生会員が入会し、自主計画を立て、サークル活動を開始している。

○各種児童館教室の開催

次に、子どもたちの興味・関心等をとらえた各種児童館教室の開催があげられる。



▲児童館農園にて農作業／親子グルメ教室

現在、○自給自足ミニ体験をテーマに、児童館農園で「そば」の作付け・栽培・収穫の体験学習、「手打ちそば」の料理実習が親子でできる『親子グルメ教室』、○コスモ街道散歩をテーマに、天体学習と観測実習ができる『ちびっこ星座教室』の2つが開催されており、それぞれ小学生児童等多数の参加を得ている。その他、年内に『子ども手話教室』『子ども将棋教室』『元気ができるスポーツ教室』等の各種教室の開設も予定されている。



▲天体望遠鏡に接して／ちびっこ星座教室

○各種イベントの開催

去る8月2日、ミラ・フード館にて、好例の人形劇フェスティバルが開催され、ホーボーズパペットシアターによる『おはよう！ロボット君』が上演された。当日は、園児・小学生・デイサービス利用者に一般参加者も集い、楽しい夏休み行事となった。

こうした子どもと老人のふれあい事業も、児童館事業として計画され、翌年2月頃には、好例のおひさまコンサートも予定されている。



▲人形劇の世界に夢中になる園児たち

○放課後児童対策の併設

次に、昼間保護者のいない家庭等にある児童の育成・指導に資するため、遊びを主とする健全育成活動を行う地域組織として、児童クラブを設置することとしており、昨年より『ちびっこ楽舎』を設置し、児童の健全育成の向上につとめている。

この放課後児童対策事業は、山形村に居住する小学校1年から3年までの少年で、事業利用登録をした児童を対象とし、学校授業日／毎週月曜日から金曜日まで(下校から午後6時まで)行われている。現在40人程度の児童登録がある。

○児童館の今後の課題

これらの活動の他に、各種児童相談等への対応も随時行うこととしており、運営委員会の設置、各種関係機関との連携強化、また有志指導者・ボランティア等の協力体制の確立も、今後の課題となっている。現在のところ、試行錯誤の事業運営の域にあるが、郡下では初の児童館、関係各位の理解と協力のもと、一層の充実が期待される。

歳時記／まほろば

◇H7. 4 / 15 於：ミラ・フード館◇



ボランティア研修会の開催

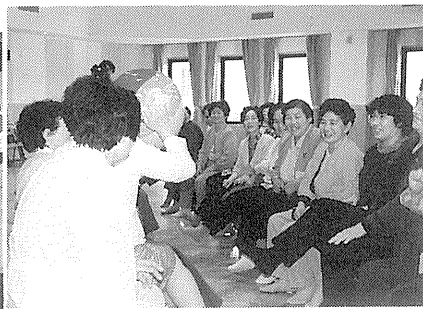
村社協主催によるボランティア研修会が、ミラ・フード館／ホールミラを会場に開かれ、日頃、この地域でボランティア活動をされている方々等約80人が参加した。

本年は、精神保健ボランティア桐の会代表の今井利江さんの「私の精神保健ボランティア活動から」と題した講演があり、ボランティア活動のあり方について学んだ。また、ボランティア連絡協議会役員による家庭介護の問題点を探る「私の春」と題したペープサート発表、住民福祉課よりは、在宅福祉サービスと在宅介護支援センターの役割についての説明、更にはブーム先取りの「遊びリレーション」体験学習と、多彩なメニューで行われ、ボランティアの役割についてあらためて確認し合う良い機会となった。



▲今井利江さんのあったかなお話

▼少しばかり緊張したペープサート



▲やっぱり勝負はベンチサッカー

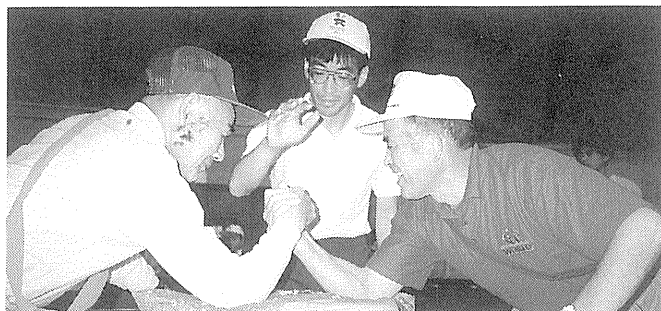
◇H7. 5 / 27 於：やまびこドーム◇

—東筑摩郡・南安曇郡合同—

障害者スポーツ大会及びスポーツ教室への参加

好例の大会に、本年も村身障協会の選手団が参加し、好成績をおさめた。

午前10時開会の後、車椅子・借り物・パン食い等の各種競争と腕ずもうが行われ、午後の部では、ゲートボールマッチ・フライングディスク・はてなゲーム・ラッキーロープと、いい汗かいて気持ちもリフレッシュ。極めつけのチーム対抗リレーには、やはり力が入った。



▲古畑会長のこの一番、結果は報告されていない。

◇H7. 6 / 12 於：龍門淵公園他◇

希望の旅事業の開催

本年度初回の希望の旅は、明科町の龍門淵公園散策と美ヶ原温泉での昼食会となった。ホームヘルパーさん達といっしょのポケットツアー、初夏の気持ちのいい旅となった。

希望の旅事業は、この他に手をつなぐ親の会の木祖村中六養魚場での魚釣り体験（8/17）、身体障害者福祉協会の会津・鬼怒川への温泉めぐりの旅（8/23～8/25）も開催されており、また、この秋にもポケットツアーが予定されている。



▲龍門淵公園にて。ほっと一息！

◇H7. 7/12 於：蓼科高原他◇

在宅介護者 リフレッシュ事業の開催



▲車内見学ツアーも粋なものネ!

この事業は、在宅の寝たきり老人等の介護をしている家族の心身のリフレッシュ・交流などを目的として例年行われてきた。本年度初回事業は、蓼科高原の温泉地にて実施され、当日はあいにくの雨天とはなったが、いい湯につかって、ほんのりとした一日を過ごすことができた。

この事業利用にあたって、被介護者は、希望によりデイサービスが利用できる。本年度第2回目は、翌年2月頃を予定している。

◇H7. 8/10 於：坂北村やすらぎスポーツ広場他◇

土とじゃがいも やすらぎ村の夏まつりへ参加

早いもので、もう1年。昨年は山形村を会場に開催された東筑ふれあいのつどい。本年は、坂北村にて実施され、本村からも手をつなぐ親の会家族等多数が参加した。

今年のメインテーマは、なんと「土とじゃがいも」であり、美味しいじゃがいもの収穫体験は、こ

の夏の暑さを忘れさせるものがあった。



▲やっぱし長いも掘りより簡単、楽勝の笑み。

◇ デイサービスふれあい／スナップ写真集 ◇

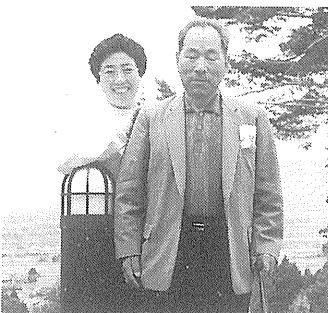
デイサービスふれあい／誕生満1年を経過して

“事業利用者・ボランティア・その他関係各位のあたたかなご協力に対し、心から御礼申し上げます。お陰様で諸行事の実施にも、ちょっぴり磨きがかかってきました。” (社協／デイ・スタッフより)

時には過剰サービスも厭いませんわ～



みんな親子と思ってるかしら？



ア！指導員さん技(わざ)あり？



なかなかお似合い／2ショット



私は何を食べようかな？

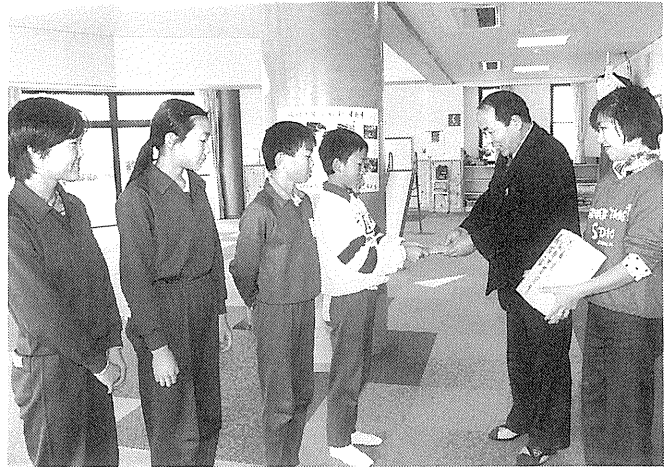
あたたかな善意、ありがとうございました。

日赤山形村分区からの報告

◇兵庫県南部地震災害の被災地へ義援金◇

日赤山形村分区では、協賛委員を通して連絡班ごとに義援金を募集し、また各団体や個人から寄せられたもの、また、ボランティア連絡協議会において実施された救援バザーの収益金全額を加えて、下記の額を日本赤十字社長野県支部を經由して被災地へ送金した。

●義援金総額 金、 3,722,319円
(3/31現在送金額)



▲山形小学校児童からも義援金が寄せられた。

【内訳】

- | | | | |
|-----------|------------|-------------|----------|
| ○各連絡班募集分 | 2,318,375円 | ○その他窓口直接募集分 | 450,690円 |
| ○山形小学校児童分 | 251,861円 | ○救援バザー収益分 | 701,393円 |

◇平成7年度日赤社資収納運動の実施結果◇

平成7年度の日赤山形村分区社資収納運動を、去る5月1日から31日までの間実施したところ、次のような実績となった。(収納された社資は、日本赤十字社長野県支部へ全額送金。)

	上大池	中大池	小坂	下大池	上竹田	下竹田	合計
社費	100,500	130,000	228,000	93,000	270,000	268,200	1,089,700円
寄附金	31,800	17,500	56,200	12,500	29,200	61,700	208,900円
社資総額	132,300	147,500	284,200	105,500	299,200	329,900	1,298,600円

社協基金等への寄附金／福祉施設等への贈り物の紹介 — 平成6年12月以降

○ダンスファン塩尻 金 40,000円	○サラダ街道 山形新鮮野菜市組合 金 10,000円	○株式会社 市民タイムス 金 200,000円	○はげみ塾 金 25,562円
○塚本福清(下竹田) 金 1,000,000円	○JA 松本ハイランド 山形支所婦人部 金 20,000円	○山口裕一郎(小坂) 金 1,000,000円	○西牧子供教室 金 50,000円
○匿名希望者(村内) 金 100,000円		○今井利江(長野市) 金 10,000円	
○丸茂周二(松本市) CDプレイヤー「デイサービスふれあい」へ		○日本禁煙友愛会山形支部	
○老人クラブ会員 雑巾 400枚 福祉施設等へ		学用品・シーツ他 学校・施設等へ	

(敬称略)

インフォメーション

① 老人日常生活用具給付等事業のご案内

この事業は、長期にわたって臥床している老人等に対し日常生活用具を貸与（または給付）することにより、日常生活の便宜を図るものです。

<p>■対象者は…… 村内に住所を有するおおむね65歳以上の老人等で、用具の使用が適当と認められる方</p>	<p>■対象となる主な用具と貸与の場合の1日あたりのレンタル料金……特殊ベッド 150円/車いす 90円/エアパッド 90円（消費税別）</p>
<p>■事業利用者(世帯)の所得により、レンタル料の利用者負担額が、無料・1/3・1/2と異なります。</p>	

インフォメーション

② 長野県福祉用具普及モデル事業のご案内

—在宅ケアに役立つ福祉用具の購入・レンタル費が50%助成されます—

この事業は、在宅療養中の老人医療受給対象者の方に対し、福祉用具の購入・レンタル費用を助成するものです。また、老人医療の安定を目指し、助成を通して福祉用具普及のあり方を調査します。

具体的には、①福祉用具利用についての相談や助言。②福祉用具利用が適切と認められた方へ、その方の申請に基づき福祉用具の購入・レンタルに必要な費用（搬入、搬出費を含む）の50%助成を実施。③福祉用具の納品後、社会福祉協議会および指定事業者による効果測定等のフォローアップ事業を行い、使い勝手など利用状況の調査にご協力いただきます。

～お申し込みからご利用まで～



<p>■対象者は…… 次のいずれかに該当する老人医療受給対象者の方①医療機関から退院した方 ②老人保健施設から退所した方 ③老人訪問看護を受けている方 ④デイケアセンター・デイサービスセンターを利用している方 ⑤その他在宅で療養している方で、福祉用具の利用により、自立の促進と健康の増進が図られる方</p>	<p>■対象となる福祉用具…… 特殊ベッド・車いす・移動用リフト・エアパッド・体位変換器・特殊尿器・入浴補助用具・歩行支援用具・痴呆性老人徘徊感知機器・その他療養生活を支援するために必要と認められる福祉用具</p>
---	---

□お問い合わせは、山形村在宅介護支援センター・社会福祉協議会まで。／☎98-3081・98-3086

横山医院々長 横山 健



“福祉より薬が生んだ長寿国”

これは、永六輔さんの『大往生』の一番先にでている川柳です。次のもの一つです。

“人生は紙おむつから紙おむつまで”

「保健・医療と福祉の連携」、これは国の老人対策の目玉の一つです。福祉が縦割り行政ではうまく行かないので、市町村に福祉のことは任せて、あっちの窓口、こっちの窓口にとウロウロしなくて済むようにして下さるようです。最近、ふれあいの館に在宅介護支援センターができました。そこに行けば「何でも解決してくれる」というわけです。

そのためにも、医療と福祉はどうしても一緒にやっていかなければ成り立たないのです。これは時の流れで、どうしても必要です。私達が寝たきりの人を往診して治療しても、その人の生き甲斐を満してあげられません。デイサービスに、ピアやまがたやふれあいの館に連れて行ってもらって、知った顔に会ったり、陶器を作ったりすることの方がずっといいのです。デイサービスを楽しみにしているお年寄りが大勢います。往診のときデイサービスの話をすると、皆、目を輝かします。

一方、福祉の側からは、病気のお年寄りのお世話をするのに、医療と連携ができていないと不安ということがあります。

暫く前まで、山形村の福祉は遅れていると感じていました。ところが、保健婦さんは3人になり、ふれあいの館ができて社協は充実する、ヘルパーさん・指導員さん・寮母さん達が、どんどん訪問サービス、入浴サービスをしてくれる、重症の方のデイサービスまでやってくれる、床ずれの治療目的に、必要とあらば週3回も入浴させてくれて、今や福祉の先端をいくようになっていきます。今、住むなら山形村です。

最後にまた『大往生』から

「85才の親父を、82才のおふくろが車椅子にのせて押すんだけど——車椅子ってのは、そういうふうにはできていないんだよ。押す方が、若くて力があるとは限らないんだけどね」

「昔、お母さんにおむつとりかえて貰ったように、お母さんのおむつが取りかえられるかい。老人介護って、そういうことだよ」

年寄りの年齢が極端に上がって、おふくろが親父の面倒をみれなくなっています。実感として、子と親と愛情に違いがあります。高福祉・高負担も当然でしょうね。

◇もくじ／社協広報第9号◇

[特集] ふれあい児童館事業等の新たな展開…	2
[歳時記まほろば] ボランティア研修会 他…	4
[報告] 日赤山形村分区からの報告 他…	6
[インフォメーション] 福祉用具普及モデル事業 他…	7
[寄稿] 医療と福祉 (横山 健) …	8

◇編集後記◇

物事について、うまく問うことができれば、もうその答えなんかはいらぬという。本当のところ、解答のないことって多いんじゃないのか。今まで、その答えを知ること、導き出すことばかりに翻弄されてはこなかったか。

児童館の子どもたちと接する中で、あらためて考え直してみたい。 編集人／社協-K.

まほろば

(社協広報／第9号)

平成7年8月31日発行

●発行所 社会福祉法人 **山形村社会福祉協議会** (ふれあいの館内)

〒390-13 長野県東筑摩郡山形村3940番地の1 ☎0263 (98) 3081 FAX0263 (98) 3016

●印刷所 日本ハイコム株式会社